

製品名: C/EBP δ/ϵ ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07708**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	28kDa

抗原情報

遺伝子名	CEBPD/CEBPE
別名	CEBPD; CCAAT/enhancer-binding protein delta; C/EBP delta; Nuclear factor NF-IL6-beta; NF-IL6-beta; CEBPE; CCAAT/enhancer-binding protein epsilon; C/EBP epsilon
遺伝子 ID	1052/1053
SwissProt ID	P49716/Q15744
免疫原	抗血清はヒト CEBPD/E 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 171-220

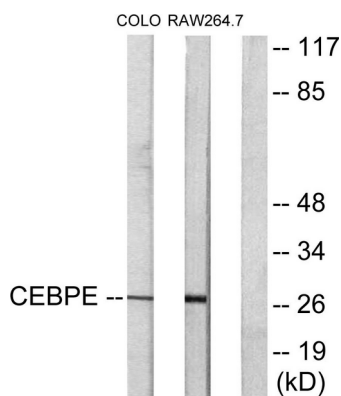
背景

このイントロンレス遺伝子によってコードされるタンパク質は bZIP 型転写因子であり、特定の DNA 調節領域にホモ二量体として結

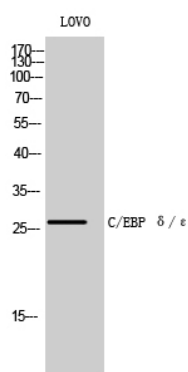
合することができる。また、関連タンパク質である CEBP- α とヘテロ二量体を形成することもできる。コードされるタンパク質は、免疫応答および炎症応答に関与する遺伝子の制御に重要であり、マクロファージの活性化および / または分化に関連する遺伝子の制御にも関与している可能性がある。この遺伝子座の細胞遺伝学的局在は、8p11 および 8q11 の両方であると報告されている。[RefSeq 提供、2010 年 9 月],function:C/EBP は、多くのプロモーターに共通する CCAAT 相同性と、多くのエンハンサーに共通するエンハンスドコア相同性の 2 つの異なるモチーフを認識する DNA 結合タンパク質である。免疫応答および炎症応答に関与する遺伝子の制御において重要な転写活性化因子であり、マクロファージの活性化および / または分化に関連するいくつかの遺伝子の制御において重要な役割を果たす可能性がある。類似性: bZIP ファミリーに属する。C/EBP サブファミリー。類似性: 1 つの bZIP ドメインを含む。サブユニット: DNA に二量体として結合し、C/EBP α と安定なヘテロ二量体を形成する。SPI1/PU1 と相互作用する。 ,

研究分野

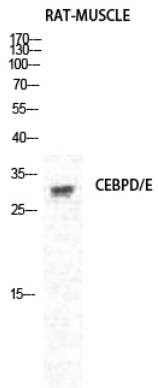
画像データ



CEBPD/E 抗体を用いた LOVO 細胞および RAW264.7 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



1: 500 に希釈した C/EBP δ/ϵ ポリクローナル抗体を使用した LOVO 細胞のウェスタンブロット解析。



1: 500 に希釈した C/EBP δ/ϵ ポリクローナル抗体を使用した RAT-MUSCLE 細胞のウェスタンブロット解析。